

いにしえ
古よりの米どころ 西予宇和

ながおさ せいよ
永長地区(愛媛県 西予市)



事業の概要	
事業名	経営体育成基盤整備事業
受益面積	50.3ha
事業内容	区画整理 50.3ha 暗渠排水 50.3ha
工期	H13~H17
総事業費	998.5百万円
関係土地改良区	西予市宇和町土地改良区

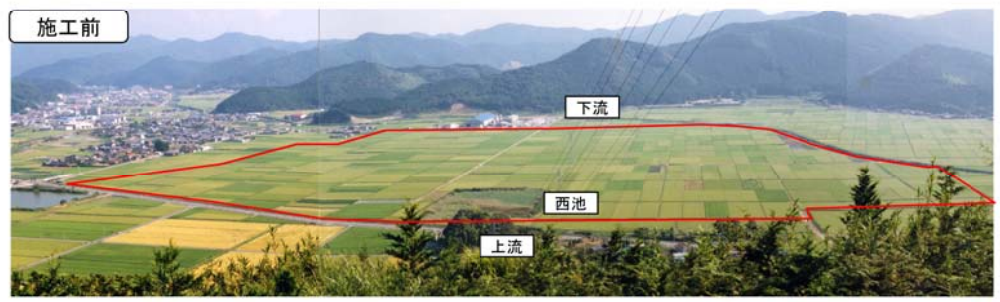
本地区は、明治末期から大正初期において10a区画の耕地整理が行われた水田地帯で、古くから稲作を中心とした農業が営まれている。しかし、地区内のほ場、農道は狭小のうえ排水等も悪くその脆弱なほ場条件は、農家の高齢化、農業従事者の減少などと相俟って地域農業の活性化を阻害する要因となっていた。

このため、農地の汎用化、大区画化による生産性の向上と併せ担い手への農地の利用集積・育成を目的とし、平成13年度からほ場整備に着手し、平成17年度に完了したものである。

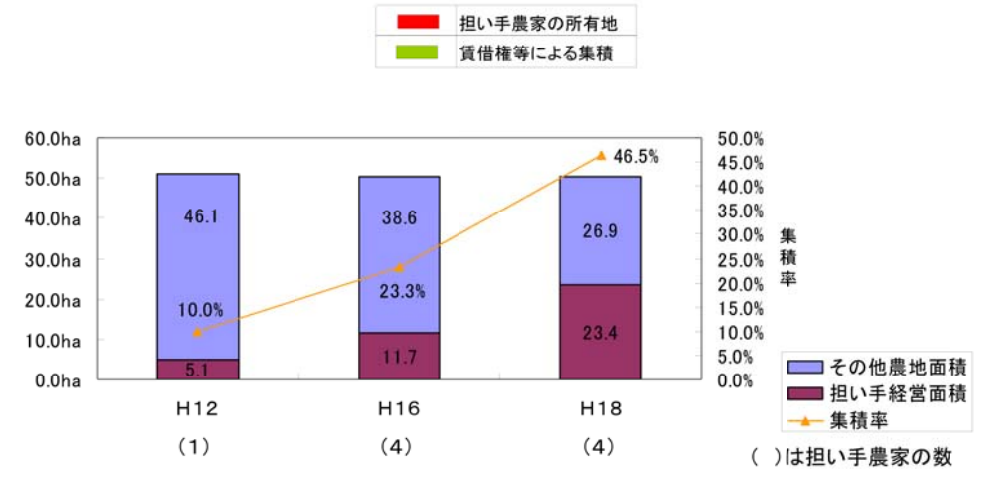
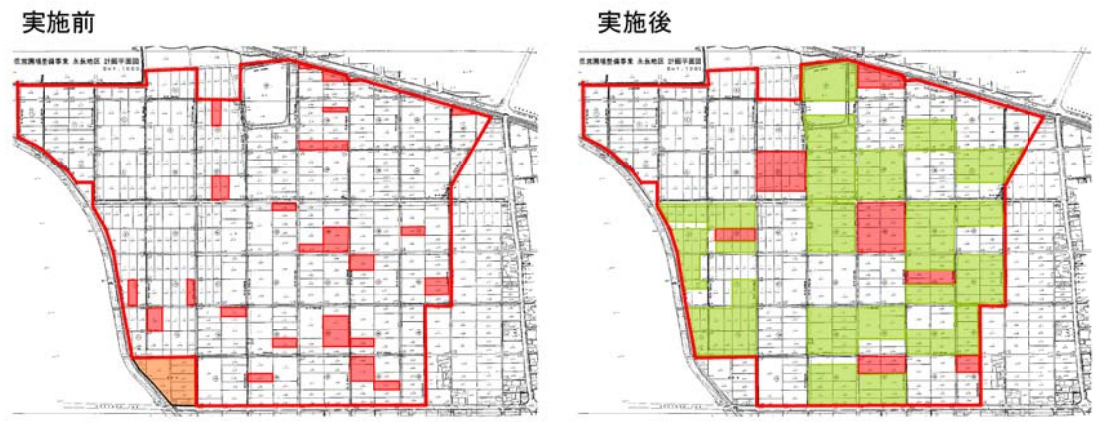
本地区の区画及び排水計画は、大型機械化体系による営農方式の導入と連坦化が図られるよう、区画の大きさは1.2ha(短辺110m×長辺110m)の大区画を基本とし、支線排水路は暗渠としている。また、用水計画は、水管理の合理化の面からパイプライン方式を採用するとともにかんばつ時の用水不足等に対応するため、地区内から排出される排水を一旦貯留するための貯水池を新設してその貯留水を反復利用する計画としている。

この貯水池の敷地については、老朽化の進行した西池との機能交換により生み出しているが、工事着手後、同池に希少植物が息していることが確認されたことから、近傍の溜池を「ビオトープ」として整備した上、希少植物の集団移植を行った。

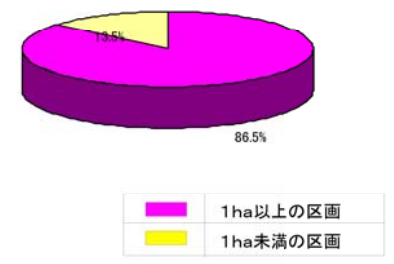
農地の利用集積は、賃借権の設定及び農作業の受託が進み、担い手への利用集積率が平成18年度において目標値(30%)を上回る46.5%まで上昇し、農業経営の合理化を図っている。



1. 農地利用集積



2. 大区画率



3. 環境対策

